

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3990500013		
法人名	合同会社 まんさくの里		
事業所名	グループホーム まんさくの里		
所在地	土佐市塚地331の1番地		
自己評価作成日	H27年9月1日	評価結果 市町村受理日	平成27年11月17日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

まんさくの里では、日々漫然と過ぎていくのではなく、常に刺激のある(変化のある)毎日を過ごしてほしいと願い、職員間で月間計画を立てたり、奇抜なほどのアイデアを出し合ったりして、利用者さん達にとって活気のある日々を送ってもらえるように、特に力を入れて工夫しています。毎月の外食や、見学等の外出は欠かさず、月1回ではあるが、地域の婦人部の皆さんたちと庭で「ガーデンカフェ」を開催したり、事業所内での売店「塚地商店」を開店したりして、職員共々利用者さんを囲んで楽しんでいます。地域の主催する百歳体操に参加し、地域との交流も怠ることなく、又天気の良い日は外気浴を楽しんだり、ホームの周りを散歩したり、バルコニーでランチを楽しんだりと毎日活気にあふれ、運営理念にそった、「健康的で明るい、家庭的でアットホームなグループホーム」を実践しています。

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kairokensaku.jp/39/index.php?action_kouhyou_detail_2015_022_kihon=true&JiryosyoCd=3990500013-00&PrefCd=39&VersionCd=022
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	高知県社会福祉協議会
所在地	〒780-8567 高知県高知市朝倉戊375-1 高知県立ふくし交流プラザ
訪問調査日	平成27年10月14日

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

事業所の周辺は自然が豊かで、庭には季節の花や野菜を植えており、ベンチやテーブルを置いて外気浴を楽しんでいる。散歩では、利用者と職員と一緒に手をつなぎ、適度なスキンシップをとりながら和やかで温かい関係を作っている。地区の婦人部主催の体操教室や、夏祭り、小学校の運動会、敬老会、公園の清掃、周辺の花植えなどに、地域の一員として積極的に参加し、事業所の敬老会には、地域に食券を無料配布して多数の参加者で賑わっている。また、事業所で開催する「ガーデンカフェ」にも招待し、地域住民との関係作りに取り組んでいる。管理者及び職員は利用者一人ひとりを大切に、「健康で明るく利用者と職員と一緒に築く家庭を目指す」という理念を念頭に、事業所運営への代表者の協力も得て地域密着型サービスの向上に努めている。

自己評価および外部評価結果

ユニット名:りんどう

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	家庭的な雰囲気の中で、明るく活気のある毎日を送ってもらうための理念や、地域との交流を図りながら、その人らしさを重視したサービスを日々職員間で共有し、実践につなげている。	「健康で明るく、利用者と一緒に築く家庭を目指し、その人らしさを維持し自立を支援しながら地域との交流を図る」という趣旨の理念を全職員で作成し、職員一人ひとりが職員会等を通じて認識し、実践につなげている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	週1回の地域の体操の参加や、職員と共に夕方に地域の夏祭りに出かけたり、近くの小学校の運動会や敬老会に招かれたり事業所の開催する敬老会や「ガーデンカフェ」にお招きしたり、交流を図っている	地域の夏祭り、小学校の運動会、敬老会、体操、公園の清掃や花植えなどの行事に参加したり、事業所の開催する敬老会、「ガーデンカフェ」の喫茶に招待して交流を深めており、近隣からの野菜等の差し入れも度々ある。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地元の小学校の学習の一環としている利用者との交流を図る中で、認知症への理解を深めてもらったり、地域の公民館で婦人部の方たちに認知症キャラバン養成講座を開催したり、また地域への奉仕活動として近くの公園の清掃活動や、周辺の花植え活動などを行っている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	行事報告や、事業所の取り組みなどを報告したり、意見を頂いたりしている。又、困難事例などの例をあげて地域包括支援センターの方に相談したり、地域の出席者の方の意見を求めたり充実した会となっており、サービスの質の向上を図っている。	会議では事業所の行事や利用者の状況を報告して、意見や要望を聞いており、地域代表からの意見で災害に備え、汲み上げポンプを敷地内に設置するなど、運営に活かしている。会議に参加していない家族には、事業所便りと一緒に会議録を送付している。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	高齢者福祉課の窓口には、ほとんど毎月申請書類などを提出するため出向している。又、その際には日ごろの状況や情報提供などで、積極的に指導を受けたりしている。	運営推進会議には、地域包括支援センターの職員が出席しており、事業所の実情を伝えて情報を得ている。市の担当窓口には、申請書類や制度運営に関すること、防災に関するマニュアルづくりなどを相談し、協力関係を築いている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	出入り口のすべてに施錠はしていない。利用者は自由に出入りできる環境ではあるが、動向を把握することで、園外の徘徊は免れている。拘束しないケアを全員で実践し、利用者は自由に過ごされている。	身体拘束に関する研修は職員全員が年1回は受けており、身体拘束のないケアを職員に徹底している。利用者一人ひとりの傾向を把握し、言葉による抑制や行動の制止をすることなく、職員が利用者を見守るケアに取り組んでいる。日中は、玄関の施錠はしていない。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃されることがないように注意を払い、防止に努めている	日頃より虐待に関しては、管理者、ケアマネジャーが職員に対して厳しく指導しており、声のかけ方まで細かく注意し防止に努めている。又、虐待防止の研修は毎年研修計画に組み込まれており、職員には必須としている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	権利擁護、成年後見制度等の研修も、虐待防止と共に研修の機会を持ち、家族さんへのアドバイス等、必要に応じて話し合いの機会も随時出来るようにしている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約に関しては、管理者が十分に説明した上で、契約者の不安や金銭的なことまで相談に応じている。また、重要事項の変更のある場合も、十分な説明をしたうえで変更事項に捺印頂いている。重度化したときの事も説明し、その時点で再度話し合いを持つことにしている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	年2回の家族会を設定し、家族同士で話し合える場を提供して、その上で意見を求めたり、運営推進会議では家族の出席もあり、気軽に思いを伝えてもらい、意見を運営に反映している。	事業所の行事の後などに年2回は家族会を開催し、概ね15人程の家族が出席して家族同士の交流もできている。出された意見や要望は職員間で検討し、運営に反映させている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎週の職員会や、月1回の研修会などで、職員の運営に関する意見なども発表する機会が多く、話し合いの場が多く持っている。代表者は職員の要望も良く聞き入れてくれるので、運営に関しても反映できていると思う。	職員からは、職員会や月1回の研修会で、利用者へのサービスに関する意見や提案が出されており、代表者の理解を得て、空気清浄機、除湿機、加湿機、壁掛け扇風機、浴槽回転チェアなどを購入して、環境改善に活かしている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	上記と同じく、職員の希望や、家庭の事情なども良く聞き入れてくれ、働きやすい環境の中、就業できている。仕事に関しても努力、実績などを良く把握できており、職員はやりがいを持って就業している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	代表者は職員の研修参加にも非常に協力的で、必要であれば、研修費、就業時間としてとらえてくれて、自由に研修受講の機会を設けている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	月に1回は利用者さん共々認知症カフェに出かけたり、他のグループホームに見学に出かけ、交流したりしてサービスの質の向上を図っている。		
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前の家族の見学や相談を受ける中、後日に必ず本人にも来所頂き、見学がてら、会話などでご本人との関係づくりにも努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居申し込みなどで来所されたとき等に、質問にもしっかり耳を傾け、お困りの事柄等をお聞きして、必要なアドバイスも差し上げて信頼関係づくりにも努力している。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	家族の方が、まず安心して利用者さんを預けられるような環境を設定し、心ゆくまで相談できるように聞く姿勢で対応している。不安な事や要望など、気軽に話せるように気配りも欠かさない。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者さんと職員は一つの家族であり、労苦を共にするという観点で関わっている。利用者さんと職員は「家族」という理念通り、よい関係を保てていると思う。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	職員は利用者と家族であることから、利用者の家族もまた、家族としてとらえることにより、利用者の困っている事は職員が代わって家族に相談したり一緒に考え、家族とも良い関係性が保てている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないう、支援に努めている	家族の協力もあり、馴染みの美容院に行ったり、近所の古くからの友人たちが訪ねてきたり、事業所の敬老会では近所の知り合いが訪ねてきたりと関係づくりもできている。又、以前に良く行っていたストアに買い物に出かけたりもしている。	利用者の友人や知人の訪問が時々あるほか、近所の量販店に買い物に行ったり、家族の協力で馴染みの美容院に行っている。事業所の敬老会にも知人が訪ねてきており、地域住民とは新たな馴染みもでき関係継続の支援に努めている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	ホーム内での友人関係もできており、又面倒見の良い利用者には、孤立しがちな利用者との交流をお願いしたりもして、関わりを深めていくのを支援している。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	他所に入院などで退居した利用者の見舞いはもちろんのこと、退院してからの入居先の相談にも応じている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者の思いや意向に関しては、家族の協力も得られ把握はできている 本人らしさは日常生活癖などで、わかる範囲で維持してもらえる様に、日々の過ごし方などを踏まえたうえで職員間で意見を出し合っ、本人本位の支援に努めている。	利用者の生活歴、日頃の行動や言葉などから思いの把握に努め、家族の協力も得ながら情報を職員間で共有し、本人の希望に沿えるようケアに反映している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時の家族よりの聞き取りや、関係サービス事業所より情報提供いただいたりして把握できている。又、日々の生活を送る中で、些細な行動や動作等で以前の様子が窺えたり、又穏やかな状態での聞き取りなどでこれまでの暮らしぶりの把握に努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	担当者会等で、又モニタリング時など職員間で話し合うとき等、担当職員はしっかり本人の癖や好みなどを捉えていて、本人にとってのベストは何かを提案してくれ、情報を共有しながら、プランにも活かしている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	モニタリングは3か月ごとに担当職員が作成し、計画作成者と職員間で担当者会を開き、全員で課題や目標達成状況について検討し、家族の意向なども考慮し、より良い生活が継続できるようプランを作成している。入退院など、生活に変化があった場合は、その都度担当者会を開催することになっている。	利用者や家族の意向を聞き、3か月毎のモニタリング結果や職員意見をカンファレンスで検討し、担当者会で話し合って介護計画を作成している。計画は3か月ごとに見直し、状態に変化があったときは随時見直している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	処遇記録は個人個人で作成し、日々の様子であったり、何気ない変化でも職員間で情報の共有をし、本人の暮らしぶりが察せられるような記録になっていて、プランにも反映している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	個々に合わせたサービスを心がけ、精神の変化や体調の変化に合わせた柔軟な支援を本人に合わせて実践している。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の清掃活動や、道路のごみ拾い等出来ることの貢献を図り、月1回のモーニングカフェには地域の婦人部の方にも協力いただき、庭での「ガーデンカフェ」を楽しんでいる。又、近くの小学校からは子供たちが、慰問と学習をかねてのんびり過ごす時間も設けている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	居宅療養管理指導にて月2～3回主治医の往診があり、緊急時は随時往診もしくは受診にて対応できる状況を作っている。歯科医の往診も月1回の間隔で検診をかねての往診があり、口腔ケアも充実している。	利用者及び家族の希望で、全利用者が協力医をかかりつけ医とし、月2～3回の往診のほか、緊急時には随時の受診や往診を受けられる体制にある。歯科医も月1回往診しており、受診結果は記録して家族に報告し、職員間で共有している。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護師は24時間対応が可能で、些細な事でも看護師に相談し、助言を受けている。夜勤も兼務しており、利用者の体調は十分把握している。緊急時は夜間、休日も受診同行の協力を得ている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	必要に応じて情報提供を行い、医療や看護に活かしてもらい、早期の退院にこぎ着けている。十分な情報交換も行っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域との関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化、終末期を迎える状況になった時は契約時に民間であることなどを説明し、主治医が必要と認めた場合は他所への転院等、三者でその時点で再度協議することとしている。	入居時に、事業所の重度化や看取りの考え方について、「看取りの指針」に基づき利用者及び家族に説明し、同意を得ている。重度化して医療処置が必要になった場合は、主治医、家族、職員で再度話し合い、事業所でできる支援をすることとしている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時の対応、けがの手当てなど看護師が定期的に職員に指導している。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	昨年度に防災マニュアルを作成し、災害時に慌てず行動に移せるように職員全員に研修時間を設け、勉強会をして実践してみたが、避難には不可と思える入居者もいて、まだ課題は残っている。地域の方の協力も得られたし、非常用食料も確保できている。	年2回、消防署の協力を得て、夜間想定も含めて避難訓練を実施しているが、地域住民の参加・協力を得るまでに至っていない。災害時の水不足に備え、手おし式ポンプの設置や3日分以上の非常用食料の備蓄を行っている。	地域との相互協力による助け合いが、被災規模を抑えることにも繋がるので、運営推進会議で避難訓練を議題にしたり、できる限り多くの住民が訓練に参加できるように地域に呼びかけることを期待したい。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者の尊厳を守ることや、プライバシー保護については常日頃より所内研修等で、職員全員に周知しており、上から目線の声掛けなどは絶対タブーとなっており、職員同士で注意し合っている。	利用者の尊厳を守ることや、虐待防止、プライバシー保護について所内研修を行い、職員全員の理解を徹底している。特に、利用者への声かけが尊厳を傷つけないよう配慮し、職員同士で注意し合っている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	外出や外食など外に出る機会も多くあり、そんな時には複数の利用者に行きたい所を聞いてみたり、食べたい物を尋ねたり本人たちの意思を尊重している。又、自分で選べるような問いかけや聞き方で関わっている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人一人のペースに合わせた日常生活を送れるように支援している。食事時間の長い人はゆっくり食事がとれるように配慮したり、夜間不眠状態でゆっくり睡眠のとれなかった人には起床時間の調整をしたり、本人の生活状態に合わせた柔軟な対応を心がけている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	家族の協力を得られ、行きつけの美容院に出かけたり、隔月位に訪れる美容院の方とも慣れて、又職員も本人に合った髪型を注文したり、イオンまで買い物に出かけて好きな洋服を選んだり積極的に支援できている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	旬の食材は出来るだけ自然のままのもので、落の皮むきやイタドリ、芋の茎の皮むきなどを全員で行い、職員も一緒に食事を楽しんでいる。後片付けも、出来ることは職員と共にやっている。	献立は利用者の希望に沿って作成し、食材は地元市場で職員が調達している。利用者は食材の皮むきや、茶葉のティーパック詰め、盛り付け等自分でできることを手伝い、利用者と職員は家族のように一体的な雰囲気ですべてを楽しんでいる。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	水分摂取量は1500cc以上を目標として、水分量の不足がちな人には代替え、又折を見ては何かしらの水分に匹敵する物を提供している(それぞれに癖もあり、集中して摂取している方もいる)。食事も便秘の解消もかねて出来るだけ繊維の多いものを提供している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	月1回の歯科医の訪問もあり、職員も歯科衛生士より口腔ケア指導を受けて起床時のモーニングケア、3食の食後の口腔ケアを励行している。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄の自立は以前より当事業所の取り組みとして目標達成計画にも掲げており、職員一丸となって取り組んでいる。夜間、不穏で転倒防止のために設置しているポータブルトイレも、朝には職員で別の場所に運び、日中は共同トイレを使用したり、又夜間は紙パンツを使用しているも、日中は職員のマメな声掛けにより布パンツで過ごす人もいる。	利用者の排泄パターンを把握した、トイレ誘導の小まめな声かけで排泄の失敗が減り、日中は布パンツの使用ができるようになった利用者が10名近くいる。常に排泄の自立に向けた支援を行うことで、パッドのサイズが小さくなるなど、利用者の自信やオムツ使用量の減少に繋がっている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	緩下剤は最小限に食い止めて、繊維性の食事を重視している。それでも便秘がちな人には間隔を決めて、何日目にはセンナ茶とか寝起きの牛乳とか、それぞれに応じた対応を実践している。朝の散歩や戸外での活動も一役かっている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴については、午後の時間帯に本人の希望など踏まえ、最低2日に1回は入浴できるように配慮しているが、拒否の人も何人かいて、時間帯を変更したり、担当職員が入れ替わったりしながら成功につなげている。希望者は毎日を原則としている。	入浴は利用者の希望に沿って午後の時間帯に支援しており、毎日でも入浴できるようにしている。体調等の関係から週2～3回の入浴が多くなっており、入浴を拒否する利用者には、誘うタイミングや声かけを工夫しながら支援している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	就寝時間、消灯時間の決まりはなく、思い思いの夜の過ごし方で、眠れないときや、夜間目覚めて眠りにつけない時は、暖かい飲み物などを提供し、安心できる状況を提供している。冬場は各自に湯たんぽなどで安眠できるよう配慮している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	利用者には必要に応じて、服薬の必要性等を理解してもらっている。職員はそれぞれの担当する利用者の服薬は認識しており、拒否のある人には必要性を説明し服薬につなげている。看護記録や情報提供書など、緊急時にも十分に情報提供できる状態を確保している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	日中は庭に出て、ベンチでくつろいだり、洗濯物を干したり、シルバーカーで庭を一回りする人や、中で洗濯物のたたみ、廊下の掃除を手伝ったりそれぞれの出来ることをされている。レクリエーションでは鳴子でよさこい踊りや炭坑節などを踊ってみたり、気分転換は図れている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	日々屋外での散歩や外気浴は当然行われ、帰宅願望の方には一緒に行動したり、普段行けないような遠くまで外食を兼ねてドライブしたりして喜ばれている。又、地元の商店まで買い物に出かけたりと、日常的に外出の支援はできている。	事業所周辺の散歩や庭での外気浴を日課としており、月1～2回は外食、季節ごとの花見、買い物などにドライブを兼ねて利用者全員で外出するなど、気分転換を図る支援を積極的に行っている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	実際には現金での買い物は困難で、職員が付き添っての支払い支援となるため、本人が物を買う楽しさを感じてもらうため、最近始めたのはホーム内での売店「塚地商店」を開店し、まんさく紙幣を作成し利用者さんたちに買い物をしてもらうことを企画し、実践している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	手紙は家族に書いてもらったものを、まんさく便りに同封したり、暑中見舞いや年賀状などを本人の希望する人に書いてもらっている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	玄関や洗面所等の目につく所には、四季の花々を飾り、散歩の道中に摘んできた野草などをあちこちに活けたりして楽しんでいる。大テーブルを囲んで、周りにはソファを配置しゆったり過ごせる空間を作っている。	玄関には、庭で採取した花を花瓶いっぱい活け、職員と一緒に作成した季節感のある折り紙や貼り絵を壁面に飾っている。居間には家庭的な雰囲気を持てるようソファを配置し、空気清浄機により換気にも配慮している。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	日中、ホールでくつろいでいても、ふと自室に戻って窓外を眺めてみたり、自室で静かにぬり絵をしたり他者の自室を尋ねたりして、雑談している光景も多く、職員は遠目で見守りながら、利用者さんは自由に思い思いに過ごされている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	自室には自作のカレンダーや写真など、又思い出の品を飾ったりして、思い思いの装飾で安心して過ごせる環境を提供している。	居室には、馴染みの筆筒、テレビ、ぬいぐるみ、小物、家族写真、自作のカレンダーなどを置いて、それぞれの利用者が安心して過ごせるよう工夫している。面会時に家族とゆっくり話ができるよう、ソファを設置している居室もある。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	トイレまでの道しるべは、大きく見て分かるように図で案内している。自室では自分でできるように洗面を設け、口腔ケアなどできることの継続を支援している。夜間、転倒が危ぶまれる利用者にはセンサーマットを設置し、事故防止につなげている。		

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目)							
項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と
			2. 利用者の2/3くらいの				2. 家族の2/3くらいと
			3. 利用者の1/3くらいの				3. 家族の1/3くらいと
			4. ほとんど掴んでいない				4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある	64	グループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように
			2. 数日に1回程度ある				2. 数日に1回程度
			3. たまにある				3. たまに
			4. ほとんどない				4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 少しずつ増えている
			3. 利用者の1/3くらいが				3. あまり増えていない
			4. ほとんどいない				4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 職員の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 職員の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 家族等の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 家族等の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が				1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどいない

自己評価および外部評価結果

ユニット名: ききょう

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	家庭的な雰囲気の中で、明るく活気のある毎日を送ってもらうための理念や、地域との交流を図りながら、その人らしさを重視したサービスを日々職員間で共有し、実践につなげている。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	週1回の地域の体操の参加や、職員と共に夕方に地域の夏祭りに出かけたり、近くの小学校の運動会や敬老会に招かれたり、事業所の開催する敬老会や「ガーデンカフェ」にお招きしたり、交流を図っている。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地元の小学校の学習の一環としている利用者との交流を図る中で、認知症への理解を深めてもらったり、地域の公民館で婦人部の方たちに認知症キャラバン養成講座を開催したり、また地域への奉仕活動として近くの公園の清掃活動や、周辺の花植え活動などを行っている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	行事報告や、事業所の取り組みなど報告したり、意見を頂いたりしている。 又困難事例などの例をあげて地域包括支援センターの方に相談したり、地域の出席者の方の意見を求めたり充実した会となっており、サービスの質の向上を図っている。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者とは頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	高齢者福祉課の窓口には、ほとんど毎月申請書類など提出するため出向している。又、その際には日ごろの状況や情報提供などで積極的に指導を受けたりしている。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	出入り口のすべてに施錠はしていない。 利用者は自由に出入りできる環境ではあるが、動向を把握することで、園外の徘徊は免れている。拘束しないケアを全員で実践し、利用者は自由に過ごされている。		

7		<p>○虐待の防止の徹底</p> <p>管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている</p>	<p>日頃より虐待に関しては、管理者、ケアマネジャーが職員に対して厳しく指導しており、声のかけ方まで細かく注意し防止に努めている。又虐待防止の研修は毎年研修計画に組み込まれており、職員には必須としている。</p>		
8		<p>○権利擁護に関する制度の理解と活用</p> <p>管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している</p>	<p>権利擁護、成年後見制度等の研修も虐待防止と共に研修の機会を持ち、家族さんへのアドバイス等、必要に応じて話し合いの機会も随時出来るようにしている。</p>		
9		<p>○契約に関する説明と納得</p> <p>契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている</p>	<p>契約に関しては、管理者が十分に説明した上で、契約者の不安や金銭的なことまで相談に応じている。また、重要事項の変更のある場合も、十分な説明をしたうえで変更事項に捺印頂いている。重度化したときの事も説明し、その時点で再度話し合いを持つことにしている。</p>		
10	(6)	<p>○運営に関する利用者、家族等意見の反映</p> <p>利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>年2回の家族会を設定し、家族同士で話し合える場を提供して、その上で意見を求めたり、運営推進会議では家族の出席もあり、気軽に思いを伝えてもらい、意見を運営に反映している。</p>		
11	(7)	<p>○運営に関する職員意見の反映</p> <p>代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている</p>	<p>毎週の職員会や、月1回の研修会などで、職員の運営に関する意見なども発表する機会が多く、話し合いの場が多く持っている。代表者は職員の要望も良く聞き入れてくれるので、運営に関しても反映できていると思う。</p>		
12		<p>○就業環境の整備</p> <p>代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている</p>	<p>上記と同じく、職員の希望や、家庭の事情なども良く聞き入れてくれ、働きやすい環境の中で、就業できている。仕事についても努力、実績などを良く把握できており、職員はやりがいを持って就業している。</p>		

13	<p>○職員を育てる取り組み</p> <p>代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>代表者は職員の研修参加にも非常に協力的で、必要であれば、研修費、就業時間として捉えてくれて自由に研修受講の機会を設けている。</p>		
14	<p>○同業者との交流を通じた向上</p> <p>代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>	<p>月に1回は利用者さん共々認知症カフェに出かけたり、他のグループホームに見学に出かけ、交流したりしてサービスの質の向上を図っている。</p>		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援				
15	<p>○初期に築く本人との信頼関係</p> <p>サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている</p>	<p>入居前の家族の見学や相談を受ける中で、後日に必ず本人にも来所頂き、見学がてら、会話などでご本人との関係づくりにも努めている。</p>		
16	<p>○初期に築く家族等との信頼関係</p> <p>サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている</p>	<p>入居申し込みなどで来所されたとき等に、質問にもしっかり耳を傾け、お困りの事柄等お聞きして、必要なアドバイスも差し上げて信頼関係づくりにも努力している。</p>		
17	<p>○初期対応の見極めと支援</p> <p>サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている</p>	<p>家族の方が、まず安心して利用者さんを預けられるような環境を設定し、心ゆくまで相談できるように聞く姿勢で対応している。不安な事や、要望などを気軽に話せるように気配りも欠かさない。</p>		
18	<p>○本人と共に過ごし支えあう関係</p> <p>職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている</p>	<p>利用者さんと職員は一つの家族であり、労苦を共にするという観点で関わっている。利用者さんと職員は「家族」という理念通り、よい関係を保てていると思う。</p>		

19		<p>○本人を共に支えあう家族との関係</p> <p>職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている</p>	<p>職員は利用者と家族であることから、利用者の家族も又、家族としてとらえることにより、利用者の困っている事は職員が代わって家族に相談したり一緒に考え、家族とも良い関係性が保てている。</p>		
20	(8)	<p>○馴染みの人や場との関係継続の支援</p> <p>本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている</p>	<p>家族の協力もあり、馴染みの美容院に行ったり、近所の古くからの友人たちが訪ねてきたり、事業所の敬老会では近所の知り合いが訪ねてきたりと関係づくりもできている。又、以前に良く行っていたストアに買い物に出かけたりもしている。</p>		
21		<p>○利用者同士の関係の支援</p> <p>利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている</p>	<p>ホーム内での友人関係もできており、又面倒見の良い利用者には、孤立しがちな利用者との交流をお願いしたりもして、関わりを深めていくのを支援している。</p>		
22		<p>○関係を断ち切らない取組み</p> <p>サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている</p>	<p>他所に入院などで退居した利用者の見舞いはもちろんのこと、退院してからの入居先の相談にも応じている。</p>		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	<p>○思いや意向の把握</p> <p>一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している</p>	<p>利用者の思いや意向に関しては、家族の協力も得られ把握はできている。本人らしさは日常生活癖などで、わかる範囲で維持してもらえる様に日々の過ごし方など踏まえたうえで、職員間で意見を出し合って、本人本位の支援に努めている。</p>		
24		<p>○これまでの暮らしの把握</p> <p>一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている</p>	<p>入居時の家族よりの聞き取りや、関係サービス事業所より情報提供いただいたりして把握できている。又、日々の生活を送る中で、些細な行動や動作等で以前の様子が窺えたり、又穏やかな状態での聞き取りなどでこれまでの暮らしぶりの把握に努めている。</p>		

25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	担当者会等で、又モニタリング時など職員間で話し合うとき等に、担当職員はしっかり本人の癖や好みなどを捉えていて、本人にとってのベストは何かを提案してくれ、情報を共有しながら、プランにも活かしている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	モニタリングは3か月ごとに担当職員が作成し、計画作成者と職員間で担当者会を開き、全員で課題や目標達成状況について検討し、家族の意向なども考慮し、より良い生活が継続できるようプランを作成している。入退院など、生活に変化があった場合は、その都度担当者会を開催することになっている。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	処遇記録は個人個人で作成し、日々の様子であったり、何気ない変化でも職員間で情報の共有をし、本人の暮らしぶりが察せられるような記録になっていて、プランにも反映している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	個々に合わせたサービスを心がけ、精神の変化や体調の変化に合わせた柔軟な支援を本人に合わせて実践している。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の清掃活動や、道路のごみ拾い等出来ることの貢献を図り、月1回のモーニングカフェには地域の婦人部の方にも協力いただき、庭での「ガーデンカフェ」を楽しんでいる。又近くの小学校からは子供たちが、慰問と学習をかねてのんびり過ごす時間も設けている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	居宅療養管理指導にて月2～3回主治医の往診があり、緊急時は随時の往診もしくは受診にて対応できる状況を作っている。歯科医の往診も月1回の間隔で検診をかねての往診があり、口腔ケアも充実している。		

31		<p>○看護職との協働</p> <p>介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している</p>	<p>看護師は24時間対応可能で、些細な事でも看護師に相談し、助言を受けている。夜勤も兼務しており、利用者の体調は十分把握している。緊急時は夜間、休日も受診同行の協力を得ている。</p>		
32		<p>○入退院時の医療機関との協働</p> <p>利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている</p>	<p>必要に応じて情報提供を行い、医療や看護に活かしてもらい、早期の退院にこぎ着けている。十分な情報交換も行っている。</p>		
33	(12)	<p>○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる</p>	<p>重度化、終末期を迎える状況になった時は契約時に民間であることなど説明し、主治医が必要と認めた場合は他所への転院等、三者でその時点で再度協議することとしている。</p>		
34		<p>○急変や事故発生時の備え</p> <p>利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている</p>	<p>緊急時の対応、けがの手当てなど、看護師が定期的に職員に指導している。</p>		
35	(13)	<p>○災害対策</p> <p>火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている</p>	<p>昨年度に防災マニュアルを作成し、災害時に慌てず行動に移せるように職員全員に研修時間を設け、勉強会をして実践してみたが、避難には不可と思える入居者もいて、まだ課題は残っている。地域の方の協力も得られず、非常用食料も確保できている。</p>		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	<p>○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保</p> <p>一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている</p>	<p>利用者の尊厳を守ることや、プライバシー保護については常日頃より所内研修等で、職員全員に周知しており、上から目線の声掛けなどは絶対タブーとなっており、職員同士で注意し合っている。</p>		

37		<p>○利用者の希望の表出や自己決定の支援</p> <p>日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている</p>	<p>外出や外食など外に出る機会も多くあり、そんな時には複数の利用者に行きたい所を聞いてみたり、食べたい物を尋ねたり本人たちの意思を尊重している。又自分で選べるような問いかけや聞き方で関わっている。</p>		
38		<p>○日々のその人らしい暮らし</p> <p>職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している</p>	<p>一人一人のペースに合わせた日常生活を送れるように支援している。食事時間の長い人はゆっくり食事がとれるように配慮したり、夜間不眠状態でゆっくり睡眠のとれなかった人には起床時間の調整をしたり、本人の生活状態に合わせた柔軟な対応を心がけている。</p>		
39		<p>○身だしなみやおしゃれの支援</p> <p>その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している</p>	<p>家族の協力を得られ、行きつけの美容院に出かけたり、隔月位に訪れる美容院の方とも慣れて、又職員も本人に合った髪型を注文したり、イオンまで買い物に出かけて好きな洋服を選んだり積極的に支援できている。</p>		
40	(15)	<p>○食事を楽しむことのできる支援</p> <p>食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている</p>	<p>旬の食材は出来るだけ自然のままのもので、落の皮むきやイタドリ、芋の茎の皮むきなど全員で行い、職員も一緒に食事を楽しんでいる。後片付けも出来ることは職員と共に行っている。</p>		
41		<p>○栄養摂取や水分確保の支援</p> <p>食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている</p>	<p>水分摂取量は1500cc以上を目標として、水分量の不足がちな人には代替え、又折を見ては何かしらの水分に匹敵するものを提供している(それぞれに癖もあり、集中して摂取している方もいる)。食事便秘の解消もかねて出来るだけ繊維の多いものを提供している。</p>		
42		<p>○口腔内の清潔保持</p> <p>口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている</p>	<p>月1回の歯科医の訪問もあり、職員も歯科衛生士より口腔ケア指導を受けて、起床時のモーニングケア、3食の食後の口腔ケアを励行している。</p>		
43	(16)	<p>○排泄の自立支援</p> <p>排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている</p>	<p>排泄の自立は以前より当事業所の取り組みとして目標達成計画にも掲げており、職員一丸となって取り組んでいる。夜間、不穩で転倒防止のために設置しているポータブルトイレも、朝には職員で別の場所に運び、日中は共同トイレを使用したり、又夜間は紙パンツを使用している、日中は職員のママな声掛けにより布パンツで過ごす人もいる。</p>		

44		<p>○便秘の予防と対応</p> <p>便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる</p>	<p>緩下剤は最小限に食い止めて、繊維性の食事を重視している。それでも便秘がちな人には間隔を決めて、何日目にはセンナ茶とか寝起きの牛乳とか、それぞれに応じた対応を実践している。朝の散歩や戸外での活動も一役かっている。</p>		
45	(17)	<p>○入浴を楽しむことができる支援</p> <p>一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている</p>	<p>入浴については、午後の時間帯を本人の希望など踏まえ、最低2日に1回は入浴できるように配慮しているが、拒否の人も何人かいて、時間帯を変更したり、担当職員が入れ替わったりしながら成功につなげている。希望者は毎日を原則としている。</p>		
46		<p>○安眠や休息の支援</p> <p>一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している</p>	<p>就寝時間、消灯時間の決まりはなく、思い思いの夜の過ごし方で、眠れないときや、夜間目覚めて眠りにつけない時は、暖かい飲み物などを提供し、安心できる状況を提供している。冬場は各自に湯たんぽなどで安眠できるよう配慮している。</p>		
47		<p>○服薬支援</p> <p>一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている</p>	<p>利用者には必要に応じて、服薬の必要性等を理解してもらっている。職員はそれぞれの担当する利用者の服薬は認識しており、拒否のある人には必要性を説明し服薬につなげている。看護記録や情報提供書など、緊急時にも十分に情報提供できる状態を確保している。</p>		
48		<p>○役割、楽しみごとの支援</p> <p>張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている</p>	<p>日中は庭に出て、ベンチでくつろいだり、洗濯物を干したり、シルバーカーで庭を一回りする人や、中で洗濯物のたたみ、廊下の掃除を手伝ったりそれぞれの出来ることをされている。レクリエーションでは鳴子でよさこい踊りや炭坑節など踊ってみたり、気分転換は図れている。</p>		
49	(18)	<p>○日常的な外出支援</p> <p>一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している</p>	<p>日々屋外での散歩や外気浴は当然行われ、帰宅願望の方には一緒に行動したり、普段行けないような遠くまで外食を兼ねてドライブしたりして喜ばれている。又地元の商店まで買い物に出かけたりと、日常的に外出の支援はできている。</p>		

50		<p>○お金の所持や使うことの支援</p> <p>職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している</p>	<p>実際には現金での買い物は困難で、職員が付き添っての支払い支援となるため、本人が物を買う楽しさを感じてもらうため、最近始めたのはホーム内での売店「塚地商店」を開店し、まんさく紙幣を作成し利用者さんたちに買い物をしてもらうことを企画し、実践している。</p>		
51		<p>○電話や手紙の支援</p> <p>家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている</p>	<p>手紙は家族に書いてもらったものを、まんさく便りに同封したり、暑中見舞いや年賀状などを本人の希望する人に書いてもらっている。</p>		
52	(19)	<p>○居心地のよい共用空間づくり</p> <p>共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>玄関や洗面所等の目につく所には、四季の花々を飾り、散歩の道中に摘んできた野草などをあちこちに活けたりして楽しんでいる。大テーブルを囲んで、周りにはソファを配置しゆったり過ごせる空間を作っている。</p>		
53		<p>○共用空間における一人ひとりの居場所づくり</p> <p>共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている</p>	<p>日中ホールでくつろいでいても、ふと自室に戻って窓外を眺めてみたり、自室で静かにぬり絵をしたり、他者の自室を尋ねたりして雑談している光景も多く、職員は遠目で見守りながら、利用者さんは自由に思い思いに過ごされている。</p>		
54	(20)	<p>○居心地よく過ごせる居室の配慮</p> <p>居室は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>自室には自作のカレンダーや、写真など又思い出の品を飾ったりして、思い思いの装飾で安心して過ごせる環境を提供している。</p>		
55		<p>○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり</p> <p>建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している</p>	<p>トイレまでの道しるべは、大きく見て分かるように図で案内している。自室では自分ができるように洗面を設け、口腔ケアなどできることの継続を支援している。夜間、転倒が危ぶまれる利用者にはセンサーマットを設置し事故防止につなげている。</p>		

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目)						
項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印		
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	
					1. ほぼ全ての利用者の	1. ほぼ全ての家族と
					2. 利用者の2/3くらいの	2. 家族の2/3くらいと
					3. 利用者の1/3くらいの	3. 家族の1/3くらいと
		4. ほとんど掴んでいない	4. ほとんどできていない			
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	64	グループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	
					1. 毎日ある	1. ほぼ毎日のように
					2. 数日に1回程度ある	2. 数日に1回程度
					3. たまにある	3. たまに
		4. ほとんどない	4. ほとんどない			
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	
					1. ほぼ全ての利用者が	1. 大いに増えている
					2. 利用者の2/3くらいが	2. 少しずつ増えている
					3. 利用者の1/3くらいが	3. あまり増えていない
		4. ほとんどいない	4. 全くいない			
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	
					1. ほぼ全ての利用者が	1. ほぼ全ての職員が
					2. 利用者の2/3くらいが	2. 職員の2/3くらいが
					3. 利用者の1/3くらいが	3. 職員の1/3くらいが
		4. ほとんどいない	4. ほとんどいない			
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	
					1. ほぼ全ての利用者が	1. ほぼ全ての利用者が
					2. 利用者の2/3くらいが	2. 利用者の2/3くらいが
					3. 利用者の1/3くらいが	3. 利用者の1/3くらいが
		4. ほとんどいない	4. ほとんどいない			
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	
					1. ほぼ全ての利用者が	1. ほぼ全ての家族等が
					2. 利用者の2/3くらいが	2. 家族等の2/3くらいが
					3. 利用者の1/3くらいが	3. 家族等の1/3くらいが
		4. ほとんどいない	4. ほとんどできていない			
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○				
			1. ほぼ全ての利用者が			
			2. 利用者の2/3くらいが			
			3. 利用者の1/3くらいが			
		4. ほとんどいない				